

『歴代宝案』訳注本全15冊刊行記念シンポジウム

琉球王国の外交文書—よみがえる『歴代宝案』

14:00 開会のあいさつ 半嶺 満（沖縄県教育委員会教育長）

【基調講演】 14:15～14:40

濱下 武志（〔公財〕東洋文庫研究部長・東京大学名誉教授）

「歴代宝案から考えるグローバル・ヒストリー —東アジア海域論の再構成—」

【パネルディスカッション】 14:50～17:00

コーディネーター

渡辺美季（東京大学大学院准教授、沖縄県歴代宝案編集委員会委員）

パネリスト

赤嶺 守（名桜大学大学院特任教授）
（沖縄県歴代宝案編集委員会委員、訳注本第6冊担当）

金城正篤（琉球大学名誉教授）
（沖縄県歴代宝案編集委員会委員、訳注本第9・10冊担当）

田名真之（沖縄県立博物館・美術館館長）
（沖縄県歴代宝案編集委員会委員、訳注本第4冊担当）

西里喜行（琉球大学名誉教授）
（沖縄県歴代宝案編集委員会委員、訳注本第13・14・15冊担当）

濱下武志（〔公財〕東洋文庫研究部長・東京大学名誉教授）
（沖縄県歴代宝案編集委員会委員、訳注本第7・8冊担当）

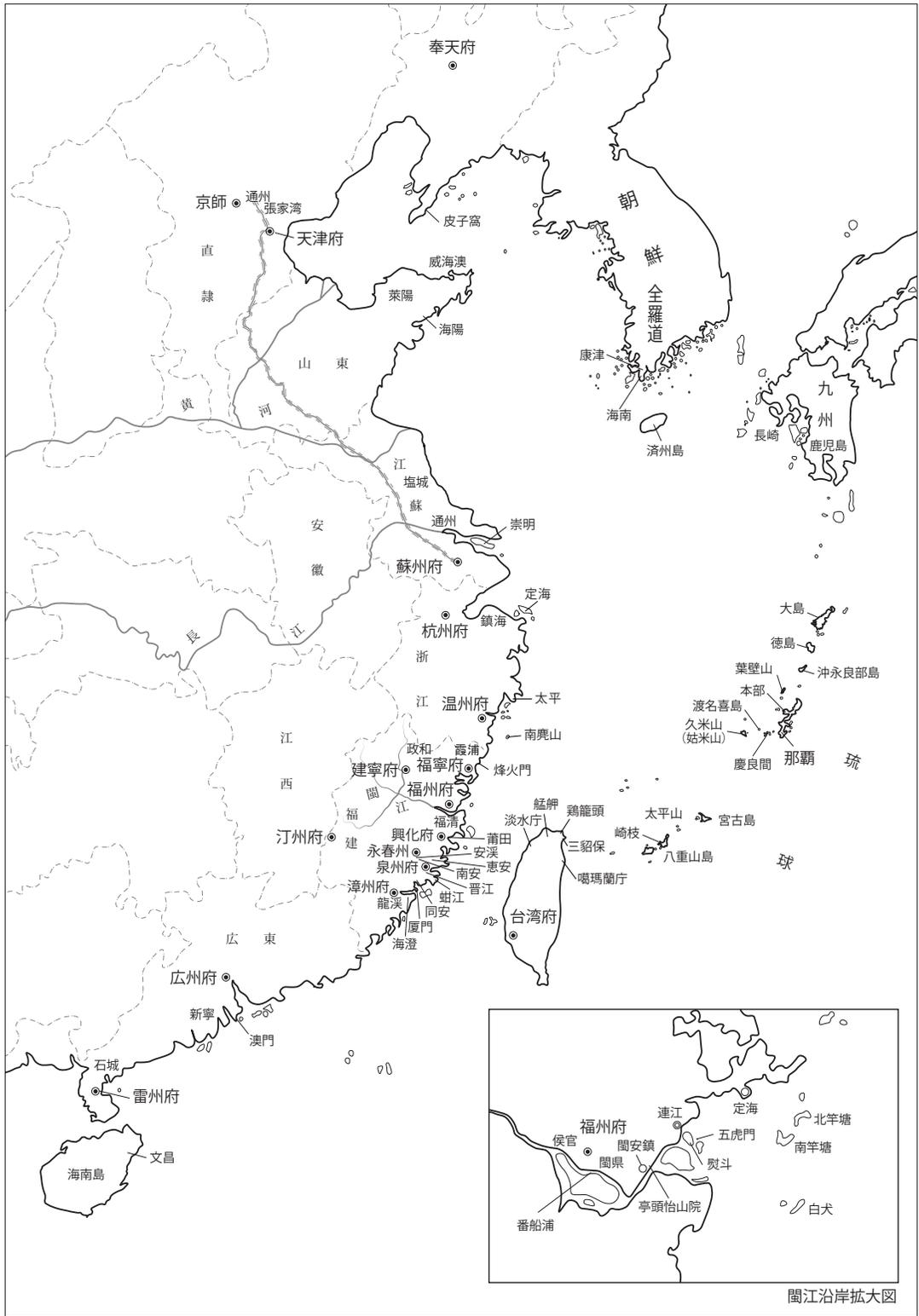
17:00 閉会

日時：2022年12月3日（土）14:00～17:00

場所：沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

主催：沖縄県教育委員会

歴代宝案関連地図



譚其驥主編『中国歴史地図集 第八冊 清時期』を参考に作成



福州城外の琉球館および閩江周辺図

野上英一著『福州攷』付録「福州市街図」（1937年）〔琉中関係研究会編『中国福建省における琉球関係史跡調査報告書』（2009年）を参考に改変〕

琉球国王・中国皇帝（明清代）一覽表

琉球国中山王(第一尚氏王統)

代	王名	在位年代
1	思紹	永樂4(1406)－永樂19(1421)
2	尚巴志	永樂20(1422)－正統4(1439)
3	尚忠	正統5(1440)－正統9(1444)
4	尚思達	正統10(1445)－正統14(1449)
5	尚金福	景泰元(1450)－景泰4(1453)
6	尚泰久	景泰5(1454)－天順4(1460)
7	尚德	天順5(1461)－成化5(1469)

琉球国中山王(第二尚氏王統)

代	王名	在位年代
1	尚 円	成化6(1470)－成化12(1476)
2	尚宣威	成化13(1477)
3	尚 真	成化13(1477)－嘉靖5(1526)
4	尚 清	嘉靖6(1527)－嘉靖34(1555)
5	尚 元	嘉靖35(1556)－隆慶6(1572)
6	尚 永	万曆元(1573)－万曆16(1588)
7	尚 寧	万曆17(1589)－泰昌元(1620)
8	尚 豊	天啓元(1621)－崇禎13(1640)
9	尚 賢	崇禎14(1641)－順治4(1647)
10	尚 質	順治5(1648)－康熙7(1668)
11	尚 貞	康熙8(1669)－康熙48(1709)
12	尚 益	康熙49(1710)－康熙51(1712)
13	尚 敬	康熙52(1713)－乾隆16(1751)
14	尚 穆	乾隆17(1752)－乾隆59(1794)
15	尚 温	乾隆60(1795)－嘉慶7(1802)
16	尚 成	嘉慶8(1803)
17	尚 灝	嘉慶9(1804)－道光14(1834)
18	尚 育	道光15(1835)－道光27(1847)
19	尚 泰	道光28(1848)－同治11(1872)

中国皇帝(明代)

代	廟号 通称	在位年代
1	太祖 洪武帝	洪武元(1368)－洪武31(1398)
2	惠宗 建文帝	建文元(1399)－建文4(1402)
3	成祖 永樂帝	永樂元(1403)－永樂22(1424)
4	仁宗 洪熙帝	洪熙元(1425)
5	宣宗 宣德帝	宣德元(1426)－宣德10(1435)
6	英宗 正統帝	正統元(1436)－正統14(1449)
7	代宗 景泰帝	景泰元(1450)－景泰7(1456)
8	英宗 天順帝	天順元(1457)－天順8(1464)
9	憲宗 成化帝	成化元(1465)－成化23(1487)
10	孝宗 弘治帝	弘治元(1488)－弘治18(1505)
11	武宗 正德帝	正德元(1506)－正德16(1521)
12	世宗 嘉靖帝	嘉靖元(1522)－嘉靖45(1566)
13	穆宗 隆慶帝	隆慶元(1567)－隆慶6(1572)
14	神宗 万曆帝	万曆元(1573)－万曆47(1619)
15	光宗 泰昌帝	泰昌元(1620)
16	熹宗 天啓帝	天啓元(1621)－天啓7(1627)
17	毅宗 崇禎帝	崇禎元(1628)－崇禎17(1644)

中国皇帝(清代)

代	廟号 通称	在位年代
1	太祖(努爾哈赤)	天命元(1616)－天命11(1626)
2	太宗(皇太極)	天命11(1626)－崇德8(1643)
3	世祖 順治帝	崇德8(1643)－順治18(1661)
4	聖祖 康熙帝	順治18(1661)－康熙61(1722)
5	世宗 雍正帝	康熙61(1722)－雍正13(1735)
6	高宗 乾隆帝	雍正13(1735)－乾隆60(1795)
7	仁宗 嘉慶帝	嘉慶元(1796)－嘉慶25(1820)
8	宣宗 道光帝	嘉慶25(1820)－道光30(1850)
9	文宗 咸豐帝	道光30(1850)－咸豐11(1861)
10	穆宗 同治帝	咸豐11(1861)－同治13(1874)
11	德宗 光緒帝	同治13(1874)－光緒34(1908)
12	宣統帝	光緒34(1908)－宣統3(1911)

冊封使渡来年表（稿）

金城正篤作成（1995.7.初稿、04.9.補訂）

国王名	封使名（官職）	出身地	渡来年	即位後	滞在期間	備考（使録等）
察度 （中山）						初めて明に入貢（洪武5年12月＝1373年） 察度即位から23年〈中山王〉と称す。
承察度 （山南）						洪武13年10月（1380）明に入貢 〈山南王〉と称す。
帕尼芝 （山北）						洪武16年12月（1384）明に入貢 〈山北王〉と称す。
攀安知 （山北）	※『明実録』の洪武29年（1396）正月の段階で始めて〈山北王〉の名義で入貢している。それ以前に明廷の冊封を受けたと見られる。『中山世譜』〈武寧王紀〉に「本年（洪武29年）。…山北王珉薨。其子攀安知立。受封于朝。遣使入貢。」とある。					
武寧 （中山）	時中（行人）		永楽2年（1404）	8年	※『中山世譜』〈武寧王紀〉永楽2年の条「附」に「察度王始通中朝。自爾而後。天使数次來臨。至于武寧始受冊封之大典。著為例」とある。	
汪応祖 （山南）	※『明実録』永楽2年4月壬午の条に次の記事がある「詔封汪応祖。為琉球国山南王。応祖故琉球山南王承察度従弟。…來朝貢方物。且奏乞如山北王例。賜冠帶衣服。…遂遣使資詔封之。并賜之冠帶等物。而借其使俱還。」『中山世譜』にも「本年（永楽二年）四月。山南王承察度従弟汪応祖。亦受封于朝」とある。					
他魯每 （山南）	陳秀芳（行人）*		永楽13年5月 （1415）			*「詰命・冠服・鈔万五千錠を賜る」（『明実録』）。『明史』琉球伝では陳季若とある。
思紹 （中山）	※『明実録』永楽5年（1407）4月乙未の条に「琉球国中山王世子思紹。…別遣使。來告其父中山王武寧卒。命礼部。遣使賜祭幣。并遣使齎詔。封思紹嗣琉球国中山王。」とあって、冊封使が派遣されたと読める。『中山世譜』〈思紹紀〉には「此時成祖。不遣使。止賜詔封之」とあって、遣使はなかったとしている。					
尚巴志	柴山（内官）		洪熙元年（1425）	3年		
尚忠	余 忭（正使・給事中） 劉 遜（副使・行人）		正統8年（1443）	3年		
尚思達	陳 傳（正使・給事中） 萬 祥（副使・行人）		正統13年 （1448）	3年		
尚金福	喬 毅（正使・給事中）* 童守宏（副使・行人）		景泰3年（1452）	2年		*『明実録』による。『中山世譜』・『殊域周咨録』では陳謙とある。
尚泰久	嚴 誠（正使・給事中）* 劉 儉（副使・行人）		景泰7年（1456）	2年		*『明実録』による。『歴代宝案』（1-1-1）では給事中李秉彝とある。
尚 徳	涌 榮（正使・吏科給事中） 蔡 哲（副使・行人司行人）	福建竜溪県	天順7年（1463）	2年	7月13日～	『歴代宝案』1-12-18
尚 円	官 榮（正使・兵科給事中） 韓 文（副使・行人）	山西洪洞県	成化8年（1472）	2年		
尚 真	董 旻（正使・兵科給事中） 張 祥（副使・行人司司副）		成化15年 （1479）	2年	8月2日～	『歴代宝案』1-17-20
尚 清	陳 侃（正使・吏科給事中） 高 澄（副使・行人司行人）	浙江鄞県 直隸順天府固安県	嘉靖13年 （1534）	7年	5月25日～9月20日* （113日、使録115日）	陳侃『高澄使琉球録』、高澄『操舟記』 *登舟は9月12日。
尚 元	郭汝霖（正使・刑科給事中） 李際春（副使・行人司行人）	江西永豊県 河南杞県	嘉靖40年 （1561）	6年	閏5月9日～10月18日 （157日）、（148日）*	郭汝霖『使琉球録』 *帰途乗船は10月9日、出港が18日。
尚 永	蕭崇業（正使・戸科給事中） 謝 杰（副使・行人司行人）	雲南建水県 福建長楽県	万曆7年（1579）	6年	6月5日～10月24日 （138日）	蕭崇業『使琉球録』、謝杰『使琉球録撮要補遺』、 同『日東交市記』（徐葆光録に引用）。
尚 寧	夏子陽（正使・兵科給事中） 王士禎（副使・行人司行人）*	江西玉山県 山東泗水県	万曆34年 （1606）	17年	6月1日～10月21日 （139日）	夏子陽『使琉球録』、王士禎『琉球入太学始末』。
尚 豊	杜三策（正使・戸科給事中） 楊 掄（副使・行人司行人）*	山東東平州 雲南鶴慶	崇禎6年（1633）	12年	6月9日～11月9日 （149日）	胡靖『杜天使冊封琉球真記奇観』 *楊掄は『宝案』では「行人司司正」。
尚 質	張學禮（正使・兵科副理官） 王 垓（副使・行人司行人）	遼陽 山東膠州	康熙2年（1663）	15年	6月25日～11月14日 （138日）（136日）*	張學禮『使琉球記』『中山紀略』 *『宝案』（1-9-7）では來到6月27日とある。
尚 貞	汪 楫（正使・翰林院檢討） 林麟煊（副使・内閣中書舍人）	江蘇江都県（原安徽） 福建莆田県	康熙22年 （1683）	14年	6月26日～11月24日 （175日）*	汪楫『使琉球雜録』『中山沿革志』 *この年は閏6月があるので29日を加算。
尚 敬	海 寶（正使・翰林院檢討） 徐葆光（副使・翰林院編修）	満州八旗（鑲白） 江蘇蘇州府長洲県	康熙58（1719）	6年	6月1日～2月16日 （252日） [次年]	徐葆光『中山伝信録』 （共計649員名）（久米系家譜・程順則の項）
尚 穆	全 魁（正使・翰林院侍講） 周 煌（副使・翰林院編修）	満州八旗（鑲白） 四川涪州	乾隆21年 （1756）	4年	7月8日～11月30日 （229日）* [次年]	周煌『琉球国志略』 *この年は閏9月があるので29日を加算。
尚 温	趙文楷（正使・翰林院修撰） 李鼎元（副使・内閣中書）	安徽安慶府太湖県 四川綿州羅江県	嘉慶5年（1800）	5年	5月12日～10月20日 （157日）	趙文楷『槎上存稿』、李鼎元『使琉球記』
尚 灝	齊 鯤（正使・翰林院編修） 費錫章（副使・工科給事中）	福建侯官県 浙江歸安県	嘉慶13年 （1808）	4年	閏5月17日～10月2日 （133日）*	齊鯤・費錫章『統琉球国志略』 *乗船10月2日、出船10月5日。
尚 育	林鴻年（正使・翰林院修撰） 高人鑑（副使・翰林院編修）	福建侯官県 浙江錢塘県	道光18年 （1838）	3年	5月9日～10月12日 （153日）	
尚 泰	趙 新（正使・翰林院檢討）* 于光甲（副使・翰林院編修）*	福建侯官県 直隸天津府滄州	同治5年（1866）	18年	6月22日～11月10日 （137日）	趙新『統琉球国志略』（総勢434人） *正・副使の官職は『球陽』に拠る。

※冊封使の「出身地」については、郭汝霖・徐葆光等の『使録』、真境名安興『沖繩一千年史』、および夫馬進『増訂使琉球録解題及び研究』等に拠った。

琉球使節の進京関連年表（咸豊・同治期）

年度	使節名 正副使	那覇発 →福州行	福州着	福州発 →北京行	北京着	北京発 →福州行	福州着	福州発 →那覇行	那覇着	備考
咸2(進) 1852	毛種美 蔡士俊	咸2.9.30	咸2.10.22 咸2.10.23	2.11.6	咸3.1.18	咸3.2.10	咸4.5	咸4.5.末	咸4.6.3	請諭使の馬克 承ら同行
咸4(進) 1854	向邦棟 毛克進	咸4.10.6	咸4.10.17	5.8.7	咸5.11.23	咸6.1.10	咸6.4.5	咸6.5.21	咸6.9.27	謝恩使兼任 帰途薩摩漂着
咸6(進) 1856	向有恒 阮宣詔	咸6.10.19	咸6.10.27	6.12.1	咸7.3.18	咸7.5.21	咸7.7.19	咸8.5.4	咸8.5.16	
咸8(進) 1858	翁俊 阮孝銓	咸8.10.8	咸8.10.16	9.3.6	咸9.6.4	咸9.7.22	咸9.10.18	咸10.4.29	咸10.5.16	
咸10(進) 1860	向志道 鄭德潤	咸10.11.17	咸11.3.10 咸11.2.4	—	—	—	—	同1.6.21	同1.9.8	進京不可 帰途漂着
同1(進) 1862	鄭 向啓元 林長隆		同1.11.4	—	—	—	—		同3.5.16	賊船遭遇 進京不可
同2(慶) 1863	馬文英 毛克述	同2.10.18	同3.2.17	3.8.25	同3.11.30	同4.2.1	同4.5.17			登極慶賀
同3(進) 1864	東国興 毛堯榮	同3.10.13	同3.10.19	4.10.1	同4.12.18	同5.2.6	同5.4.11	同5.5.14 同5.6.4	同5.5.25	請封使兼任
同4(迎) 1865	發 鄭秉衡 鄭	同4.10.7	同4.10.21	—	—	—	—	同5.6.9	同5.6.21	接封使
同5(進) 1866	毛文彩 魏掌治		同5.10.25		同6.5.19	同6.7.2		同7.閏4.20	同7.5.5	謝恩使(御書)
同5(謝) 1866	馬朝棟 阮宣詔	同5.11.4	同5.11.10	6.4.7	同6.8.15	同6.10.17		同7.閏4.16	同7.5.5	謝恩使(冊封)
同7(進) 1868	向文光 林世爵	同7.10.2	同8.3.21	8.4.18	同8.8.20	同8.10.22	同9.1.18	同9.5.8	同9.5.19	往路遭風
同9(進) 1870	楊光裕 蔡呈楨		同9.10.22	9.10.28	同10.2.2	同10.4.2		同11.5.23	同11.6.6	
同11(進) 1872	向德裕 王兼才	同11.10.16	同11.10.29	11.11.27	同12.3.6	同12.5.18		同13.4.20		
同13(進) 1874	毛精長 蔡呈祚	同13.9.13	同13.9.28	13.11.3	光1.2.9	光1.5.10				

典拠：『清代中琉関係檔案選編』、『清代中琉関係檔案統編』、『清代中琉関係檔案三編』、『歴代宝案』（台湾大学本）第十四冊・第十五冊、『中山世譜』卷十三、『球陽』卷二二、『琉球王国評定所文書』第八巻、『那覇市史』資料篇第1巻6（久米系家譜）、『那覇市史』資料篇第1巻7（首里系家譜）、『那覇市史』資料篇第1巻9（近世那覇関係資料）、『対外関係史総合年表』（吉川弘文館）、東恩納寛惇『尚泰侯実録』、徐恭生「清代の琉球朝京使節の研究」（『中国福建省・琉球列島交渉史の研究』所収）、頼正維「清代福建委派官員護送琉球臣赴京考」（『第五屆中琉歴史関係學術會議論文集』所収）、深澤秋人「琉球使節の北京滞在期間—清朝との通交期を中心に—」（『沖繩国際大学 総合學術研究紀要』第8巻1号、2004）、『沖繩県史』12巻等参照。

異国船（欧米艦船）の琉球来航略年表

1832年8月	アマースト号（船長リンゼイ、通訳官ギュツラフ）来航、一週間滞在、戦略的価値／貿易の可能性等調査
1840年8月	インディアン・オーク号（ポーマン船長、乗組員67名）、アヘン戦争参戦の途中台風に遭遇して漂流、沖縄本島北谷沖で座礁／沈没、乗組員全員救助され、浙江省舟山の英軍基地へ送還
1842年4月～5月	テヘン戦争参加の英国船、琉球各地に寄港、牛／山羊／鶏／野菜などの生鮮食料を要求／掠奪
1843年～45年	アマラン号（英国戦艦、ベルチャー艦長）、サヘン戦争終了後、琉球列島の各地を調査／測量
1844年4月	キルクメヌ号（仏国艦船、デュプラン艦長）来航、ユランス人のカトリック宣教師フォルカード、上陸／長期滞在
1846年4月	メターリング号（英国商船、マックチェイン船長）来航、英国籍の宣教師兼医師ベッテルハイム（伯徳令）一家、上陸／長期滞在
1846年5月	ミビーヌ号（仏国艦船、ゲラン船長）来航、シオルカードの後任として宣教師ルチュルデュ（伯多禄）上陸
1846年6月	エレオパートル号（仏国艦船、セシーユ提督）等二隻来航（那覇→運天）、開港／条約締結要求
1849年12月	パイロット号（英国艦船、ライオンズ提督）、パーマストーン書簡携帯／提出
1852年2月	スフィンクス号（英国船、シャドウェル船長）、パーマストーン書簡携帯／提出、首里城強行入城
1852年月4月	ロバート・バウン号（米国籍苦力貿易船、ブレイソン船長）、乗船の苦力反乱により奪取され台湾へ→途次、石垣島崎枝村沖で座礁→苦力380名上陸／長期滞在（船上の20名は船員により廈門へ連行／裁判→英米艦船の襲来／捕縛作戦）→琉球側の苦力護送計画→福建へ護送船派遣→途中、海賊の襲撃
1853年～54年7月	ペリー、サスケハナ号（米国の日本開国遠征艦隊旗艦）等四隻、日本遠征の前進拠点化、日米和親条約、琉米修好条約締結。
1854年2月	ロビーナ号（イギリス船）、ベッテルハイムの後任として宣教師モートン来琉
1855年月2月	リヨン号（仏国艦隊、ゲラン提督）、琉仏条約締結。フランス人のカトリック宣教師、ジラル（1858年10月まで琉球に滞在）・フュレ（1862年10月まで）・メルメ（1856年10月まで）来琉。
1859年7月	オランダ使節ファン・カペレン、琉蘭条約締結

歴代宝案関連年表

西暦	主なできごと（琉球・中国・日本）	歴代宝案編集関係	歴代宝案収録範囲
1372	中山王察度が初めて明に入貢		
1419	中山王思紹、暹羅（シヤム）に遣船		
1429	三山統一		
1531	「おもろさうし」巻1の編集		
1609	島津侵攻		
1644	明朝滅び清朝が建つ		
1650	羽地朝秀（向象賢）、「中山世鑑」を著す		
1661	南明政権倒れる		
1673	久米村に孔子廟を創建		
1689	首里王府に系図座を設置		
1697		蔡鐸らによる歴代宝案第一次編集	
1701	蔡鐸が「中山世譜」を著す		
1713	「琉球国由来記」を編集		
1725	蔡温が「中山世譜」を改訂、以後編集継続（～1876）		
1729		程順則らによる第二次編集、その後も編集継続	
1731	鄭秉哲ら「琉球国旧記」を編集		
1745	鄭秉哲ら「球陽」を編集、以後編集継続（～1876）		
1814		このころ鄭良弼本成立か	
1846	英宣教師ベッテルハイムの来琉		
1853	米ペリー艦隊が那覇に来航		
1854	琉米修好条約		
1866	尚泰、最後の冊封を受ける		
1867	大政奉還	このころ最後の編集がなされたか	
1879	沖縄県設置	王府保管本、旧沖縄県庁より東京・内務省へ移管 →関東大震災で焼失か	1867年の接貢関連記事 （宝案最後の記録）
1923			
1931		天妃宮保管本、久米村の神村家から天尊廟へ移される	
1932		12月～翌1月初 東恩納寛惇が筆写（東恩納筆写本）	
1933		8月 鎌倉芳太郎による写真撮影（鎌倉本） 11月 県立図書館へ移管、副本作成（旧県立図書館本）	
1934		（または1935）東恩納寛惇による写真撮影（東恩納影印本）	
1935		旧台北帝国大学小葉田淳氏依頼で写本作成（台湾大学蔵写本）	
1941		東京大学史料編纂所依頼で写本作成（東京大学蔵写本）	
1945	沖縄戦	旧県立図書館本焼失	
1972	本土復帰	台湾大学蔵『歴代宝案』影印本出版	
1986		『那覇市史』資料篇（歴代宝案第一集抄）刊行	
1989		沖縄県教育委員会による歴代宝案編集事業開始	
1991		中国第一歴史档案馆と「覚書」締結（～現在、第6次「協議書」）	
1992		『歴代宝案』校訂本第1・2冊刊行、第1回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム開催	
1993		（～現在。沖縄・北京と交互に開催）	
1994			1994 訳注本第1冊刊行
2016		『歴代宝案』校訂本第15冊刊行 （全15冊完結）	
2021		琉球王国交流史デジタルアーカイブ公開	
2022			2022 訳注本第15冊刊行 （全15冊完結）

1424年 永楽帝崩御の勅諭
（宝案最初の記録）

444年間

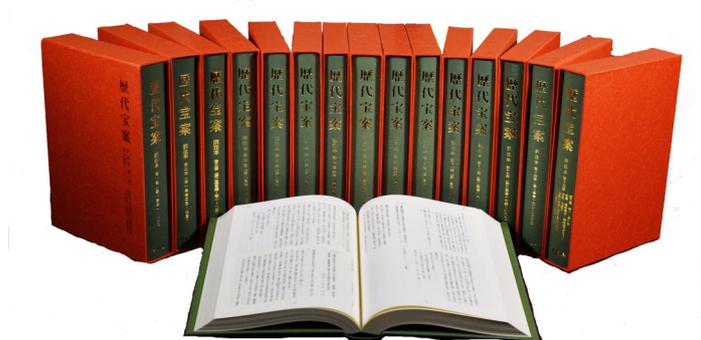
1867年の接貢関連記事
（宝案最後の記録）

『歴代宝案』 訳注本全15冊一覧

冊数	収録巻	収録年代 (西暦)	訳注者	訳注協力者	発行年月
第1冊	第1集巻1～22	永楽22～康熙36 (1424～1697)	和田 久徳	池谷望子 内田晶子 高瀬恭子 土肥祐子 吹抜悠子	平成6年3月(1994)
第2冊	第1集巻23～43	宣徳1～康熙35 (1426～1696)	和田 久徳	池谷望子 内田晶子 高瀬恭子 土肥祐子 吹抜悠子	平成9年3月(1997)
第3冊	二集 歴代宝案目録(上下)	康熙36～咸豊8 (1697～1858)	神田 信夫	池谷望子 高瀬恭子 土肥祐子 宮田道昭 渡辺修	平成10年3月(1998)
	第2集巻1～14	康熙36～雍正3 (1697～1725)			
第4冊	第2集巻15～30	雍正3～乾隆14 (1725～1749)	田名 真之		平成29年3月(2017)
第5冊	第2集巻31～49	乾隆15～乾隆30 (1750～1765)	生田 滋		平成25年3月(2013)
第6冊	第2集巻50～74	乾隆31～乾隆54 (1766～1789)	赤嶺 守	西里喜行	平成31年3月(2019)
第7冊	第2集巻75～89	乾隆53～嘉慶4 (1788～1799)	濱下 武志	黨武彦 林正子	平成21年3月(2009)
第8冊	第2集巻90～104	嘉慶4～嘉慶13 (1799～1808)	濱下 武志	黨武彦	令和3年3月(2021)
第9冊	第2集巻105～122	嘉慶13～嘉慶22 (1808～1817)	金城 正篤	富田千夏	平成28年3月(2016)
第10冊	第2集巻123～145	嘉慶21～道光7 (1816～1827)	金城 正篤	富田千夏	令和2年3月(2020)
第11冊	第2集巻146～160	道光6～道光15 (1826～1835)	小島 晋治	栗原純 白川知多 杉山文彦 並木頼寿	平成17年3月(2005)
第12冊	第2集巻161～173	道光15～道光21 (1835～1841)	小島 晋治	白川知多 杉山文彦	平成27年3月(2015)
第13冊	第2集巻174～189	道光21～道光30 (1841～1850)	西里 喜行	赤嶺守 上里賢一 豊見山和行	平成14年3月(2002)
第14冊	第2集巻190～200	道光30～咸豊8 (1850～1858)	西里 喜行	赤嶺守 上里賢一 豊見山和行	平成30年3月(2018)
第15冊	第3集巻1～13	咸豊9～同治6 (1859～1867)	西里 喜行	漢那敬子 本村育恵	令和4年3月(2022)
	別集 呷嘆情状(別台)	道光24～道光27 (1844～1847)			
	別集 呷嘆唾三行情状(別鎌)	道光26～咸豊5 (1846～1855)			
	咨集 文組方	乾隆38～49 (1773～1784)			
	康熙五十八年亥 冠船の時 唐人持ち来たり候貨物録	康熙58(1719)			
	二集 歴代宝案目録(乾)	康熙36～乾隆40 (1697～1775)			
	二集 歴代宝案目録(坤)	乾隆40～嘉慶25 (1775～1820)			

メモ





『歴代宝案』訳注本全15冊刊行記念シンポジウム

日時：2022年12月3日（土）

場所：沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

主催：沖縄県教育委員会